

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

<博士前期課程>

アーカイブズ学専攻（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. アーカイブズ学の中核的知識を体系的に身につけるため、「アーカイブズ学概論」「アーカイブズ学理論研究」「記録アーカイブズ研究」「アーカイブズ管理研究」「デジタルアーカイブズ」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度）
2. より広い情報資源論という領域からアーカイブズ学を位置づける視点を獲得するため、図書館情報学及び博物館情報学に関する「情報資源論」を配置する。（知識・技能）
3. アーカイブズ学に関する基礎的研究能力を養成するとともに、将来専門職（アーキビスト）として様々な現実的課題に科学的かつ実践的に対応する問題解決能力を育成するため、「アーカイブズ管理演習」「デジタルアーカイブズ演習」「アーカイブズ学演習」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度）
4. アーカイブズ機関の様々な業務及びアーキビストの専門的業務の在り方を観察ないし模擬体験することを通して、様々な調整、応用又は変更等が重ねられていること、またそれらにより業務の全体が構成されていることを理解するため、機関実習を含む「アーカイブズ実習」を配置する。（知識・技能／関心・意欲・態度）

（教育方法）

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身の課題設定及び研究作業を基として、プレゼンテーション能力及び論文作成能力を向上させるため、研究発表、質疑応答、研究討議を行う。
3. 実習科目により、アーカイブズ機関における2週間の実習、その事前学習及び事後のフォローアップ等を行う。
4. 学生が提出した研究計画書に基づいて組織された修士論文指導委員会は、論文の進捗について報告を受け、指導を行う。

5. 指導教授がきめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、修士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。
4. 実習を行った外部機関の指導担当者より実習評価票を提出してもらうとともに、実習検討会において意見交換を行い、現場における適応能力、知識・技能の活用能力を評価する。

<博士後期課程>

アーカイブズ学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

(教育内容)

1. アーカイブズ学の専門的知識を高めるため、「アーカイブズ学概論」「アーカイブズ学理論研究」「記録アーカイブズ研究」「アーカイブズ管理研究」「デジタルアーカイブズ」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度）
2. より広い情報資源論という領域において、アーカイブズ専門職が図書館及び博物館の専門職と協力・連携する考え方と方策を探るため、「情報資源論」を配置する。（知識・技能）
3. アーカイブズ学に関する専門的研究能力を養成するとともに、専門職（アーキビスト）又は研究者・教育者として、様々な現実的課題に科学的・実践的に対応する問題解決能力及び研究教育指導力を養成するため、「アーカイブズ学演習」「アーカイブズ管理演習」

「デジタルアーカイブズ演習」を配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

4. 博士論文の執筆・提出及びその口述試験に臨むために必要な知識・方法を修得できるよう、「博士論文指導」を必修科目として配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身の課題設定及び研究作業を基として、プレゼンテーション能力及び論文作成能力を向上させるため、研究発表、質疑応答、研究討議を行う。また司会役を務めさせ、研究教育上の配慮ができるよう指導する。
3. 学生が提出した研究計画書に基づいて組織された博士論文指導委員会は、論文の進捗について報告を受け、指導を行う。
4. 指導教授は定期的に個別面談を行い、執筆計画、論文構成、論述指導等を行う。また論文執筆に必要となる幅広い専門的学識が獲得できるように関連課題・原理についてディスカッション等を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、博士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目においては、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、他者の議論を汲み取り、適切な方向に伸ばしていく能力、及び議論全体の中で妥当な結論に導く能力を測る。
3. 演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、科学的かつ実証的に解決する能力を測る。